

令和3年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（穂いもち）	—	並
	紋枯病	やや少	やや少
	トビイロウンカ	やや多	多
	(注意報第2号継続) 穂吸汁性カメムシ類	少	やや少
普通期水稲	いもち病（葉いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	セジロウンカ	やや少	やや少
	トビイロウンカ（防除情報第6号） コブノメイガ	並 やや少	やや多 やや少
大豆	ハスモンヨトウ	—	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ）	少	少
	ハダニ類（防除情報第7号）	多	多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病） アザミウマ類	並 並	並 並
かんきつ	かいよう病（防除情報第8号）	多	多
	黒点病	少	少
	ミカンハダニ	やや少	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	黒星病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	並	並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	多	多
	(防除情報第9号) チャノホソガ	やや多	やや多
	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査(39筆)の結果、葉いもちの発病株率は2.6%(2.3%)、発生圃場率は20.5%(27.7%)であり、一部多発圃場がみられた。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、葉いもちの発生は認められなかった(過去10か年平均 発病株率0.8%)。

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率8.6%)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は58.0%(24.8%)であった。

3. トビイロウンカ

令和3年7月1日付け**病害虫発生予察注意報第2号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

- ア 7月前期の巡回調査(39筆)の結果、株当たり虫数は0.1頭(0.0頭)、発生圃場率は48.7%(21.0%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(株当たり虫数0.1頭、寄生株率5.3%)。

4. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期のイネ科雑草におけるすくい取り調査(29地点)の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は2.9頭(8.9頭)であった(表)。
- イ むこう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくいとり当り虫数						発生地点率	
	H29	H30	R1	R2	平年	R3	平年	R3
ホソハラカメムシ	0.8	1.1	0.2	0.8	0.7	0.3	62.1	31.0
クモヘリカメムシ	0.0	1.0	0.2	0.0	0.3	0.0	22.7	6.9
シラホシカメムシ	0.4	0.1	0.2	0.1	0.2	0.0	33.7	10.3
アスジカスミカメ	7.6	7.8	5.0	1.8	7.8	2.8	82.7	51.7
ミナミアオカメムシ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	6.9
計	9.2	9.7	5.3	2.3	8.9	2.9	90.2	65.5

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降の水田周辺の雑草地を除草すると本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。
- イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。
- ウ ミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

普通期水稻

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（86筆）の結果、葉いもちの発病株率は1.3%（0.1%）、発生圃場率は2.3%（2.5%）であり、一部多発圃場がみられた。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.4%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
7月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	-	-	3	-	-	-	-	-	-	3
7月5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月7日	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
7月11日	2	-	2	-	-	-	-	-	2	2
7月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
7月13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

発生指標	?:判定 不能	-:好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	●:好適 条件
------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	------------

* 感染した場合、感染好適と判断された日から7～10日後に病斑発現

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（86筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.0%、発生圃場率0.1%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（86筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.1%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 7月前期の巡回調査（86筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は9.3%（20.5%）であった。

エ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭（0.1頭）、寄生株率は7.0%（9.0%）であった。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、株当たり虫数は0.1頭(0.2頭)、発生圃場率は37.2%(52.8%)であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は5.4頭(1.8頭)、寄生株率は95.0%(60.9%)であった。

5. トビイロウンカ

令和3年7月15日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

6. コブノメイガ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月2半旬を主体にフェロモントラップ(諫早市)への誘殺が認められた。

イ 県内各地(長崎市琴海戸根、大村市、佐世保市、対馬市)のフェロモントラップでの誘殺は、7月1半旬に大村市、7月2半旬に対馬市、7月3半旬に長崎市、佐世保市、大村市で誘殺を確認した。

ウ 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、食害株率は0.0%(0.2%)、食害発生圃場率は2.3%(5.5%)とやや少なかった。

エ 7月3半旬の県予察圃場(無防除)調査の結果、発生を認めなかった(食害株率6.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の今後の発生予測は令和3年7月15日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**による。

イ 薬剤散布は、粉剤・液剤では成虫発生最盛期の7~10日後、粒剤では成虫発生最盛期に行う。

ウ 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、圃場の見回りを徹底する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量はやや少から平年並に推移している(図)。

イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

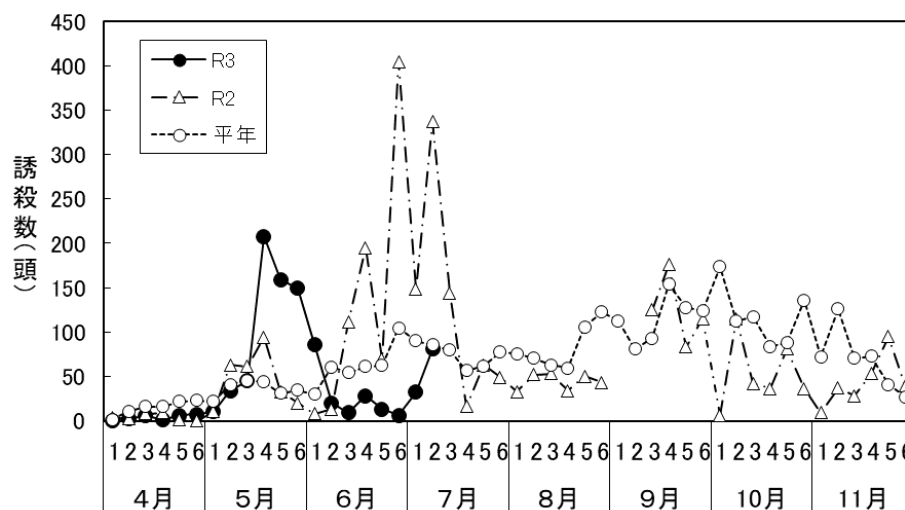


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)
※R2 9月1、2半旬台風のため欠測

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご（育苗床）

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（29筆）の結果、発病株率は1.2%（0.9%）、発生圃場率は10.3%（11.4%）であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（29筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.1%、発生圃場率5.1%）。

3. ハダニ類

令和3年7月15日付け**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

アスパラガス

1. 斑点性病害

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病側枝率は0.4%（0.7%）、発生圃場率は16.7%（22.6%）であった。

2. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は27.1頭（11.5頭）、発生圃場率は58.3%（63.9%）で一部多発圃場が見られた。

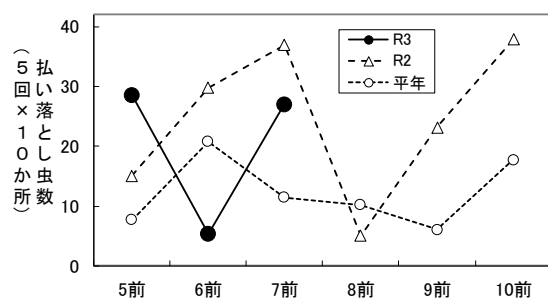


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

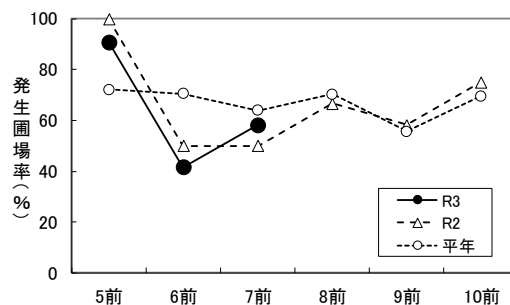


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

令和3年7月15日付け病害虫発生予察防除情報第8号による。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - 7月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発病果率1.2%、発生圃場率12.0%）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 今後の気象（降雨）の推移に留意し、防除適期を逸さないよう努める。
 - イ 臨機防除で薬剤を追加散布する場合は、各薬剤の使用回数に注意する。
 - ウ 枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は8.9%（9.6%）、発生圃場率は25.0%（42.4%）であった。
 - イ 向こう1か月の気温は平年並か高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（被害果率（果梗）0.2%、発生圃場率7.7%）。
 - イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年より多く推移している。

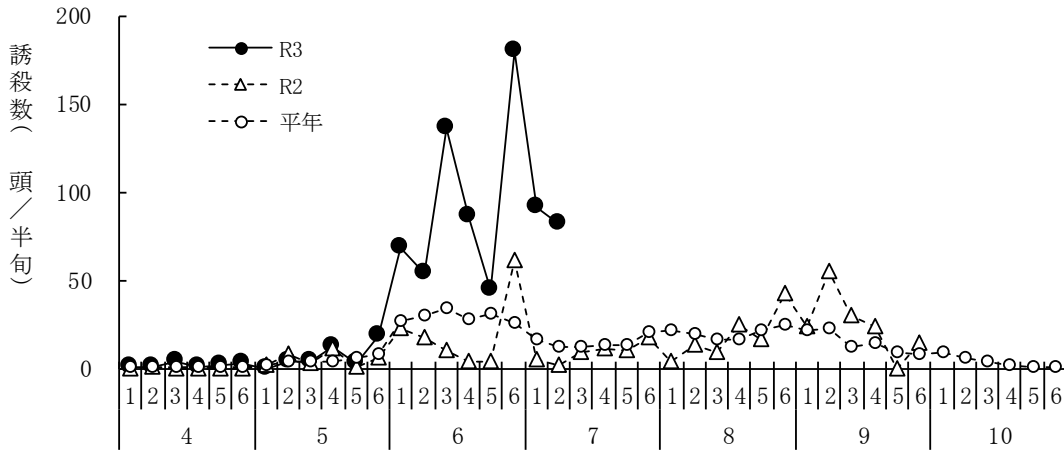


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ) (月・半旬)

- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。
 - イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第4世代	7/7	7/8	7/12	7/21
〃 (平年)	7/20	7/26	7/21	8/2
〃 (前年)	7/17	7/17	7/19	7/27
第5世代	7/25	7/26	7/29	8/8
〃 (平年)	8/5	8/11	8/6	8/20
〃 (前年)	8/2	8/2	8/5	8/13
第6世代	8/10	8/11	8/15	8/26
〃 (平年)	8/22	8/29	8/23	9/9
〃 (前年)	8/18	8/18	8/22	9/1
標高(m)	27	4	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2021年7月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

びわ

1. がんしゅ病

- (1) 予報内容：発生程度 少
 (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝率0.5%、発生圃場率20.0%）。

2. 灰斑病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
 (2) 予報の根拠

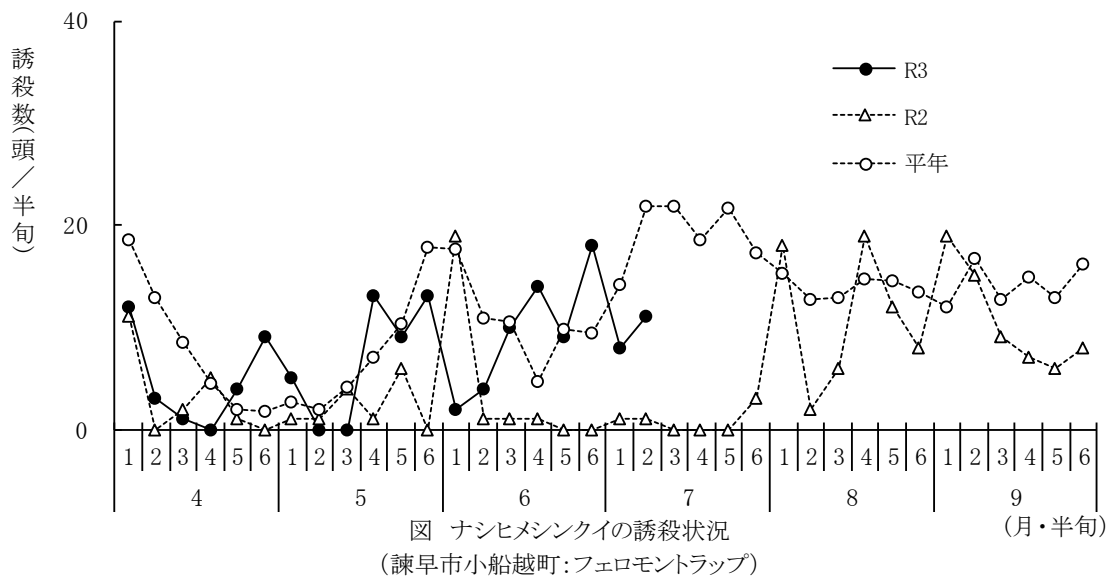
7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生枝葉率は5.4%（32.0%）、発生圃場率は90.0%（98.8%）であった。

3. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
 (2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（10か年平均寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.0%）。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している（図）。



なし

1. 黒星病

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
 - 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.1%（1.3%）、発生圃場率は25.0%（35.8%）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。
 - イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。
 - ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。
 - エ 県内において、DMI（ステロール生合成阻害）剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P410～411の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. ナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
 - ア 7月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（過去5か年発生を認めない）。
 - イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している（びわの項参照）。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠
 - フェロモントラップの誘殺量は、各地区とも平年より少なく推移している（図）。
- (3) 防除上注意すべき事項
 - ア 飛来時期や飛来数は園によって差があるので、こまめに見廻って早期発見に努

- め、飛来を認めたら早急に防除する。
- イ ハウス栽培では、開口部を防虫網（4mm目以下）で被覆し、侵入を防ぐ。また既に被覆済みのハウスでは、防虫網の破損がないか点検・補修する。
- ウ 無袋栽培のなしでは被害が大きくなるので、特に防除が遅れないようにする。
- エ 収穫時期に近い品目は薬剤の散布時期に注意し、農薬使用基準を遵守する。

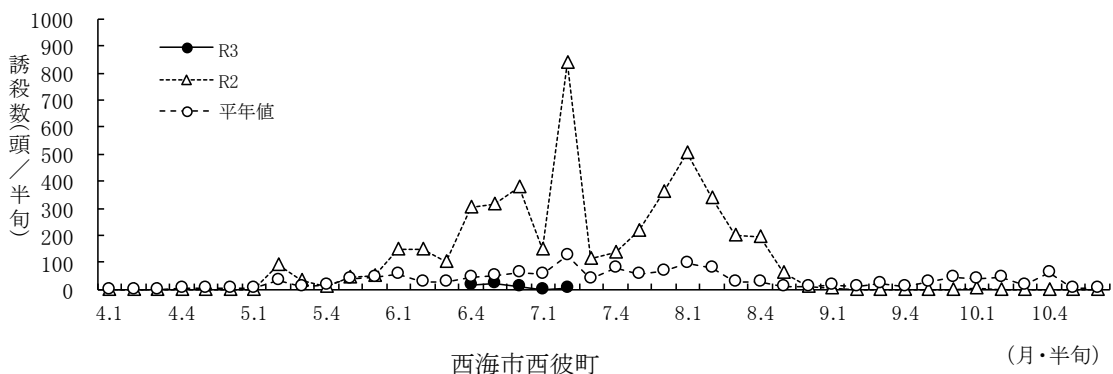
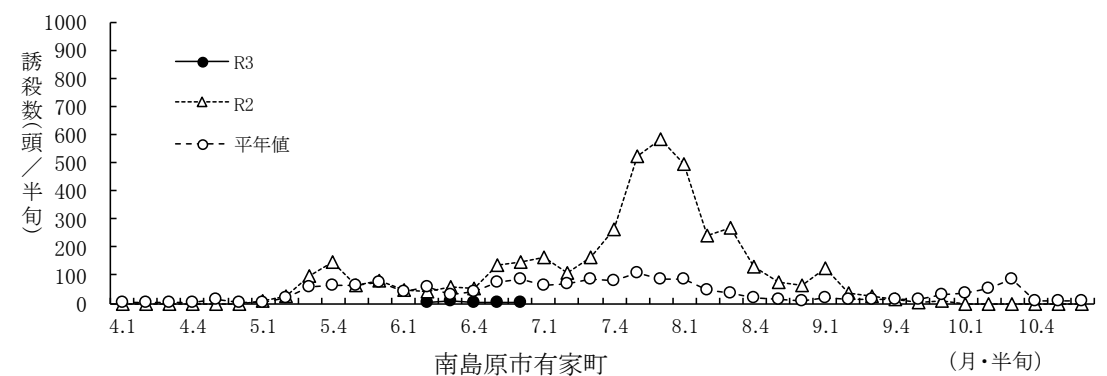
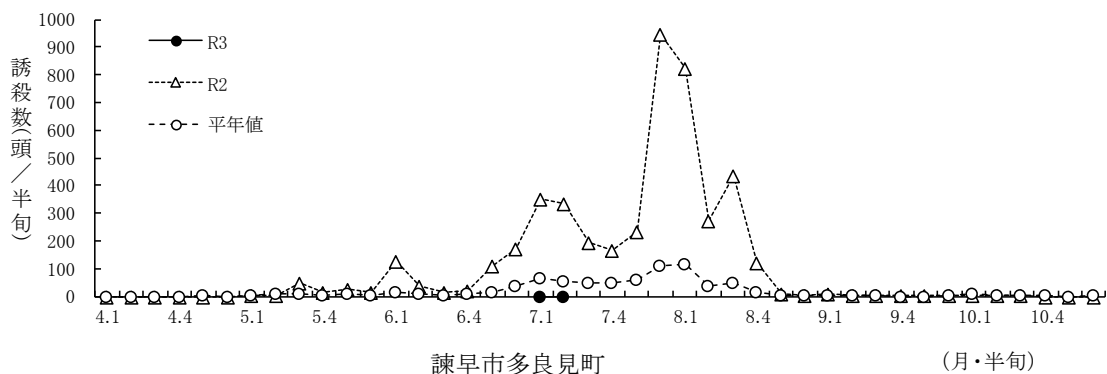
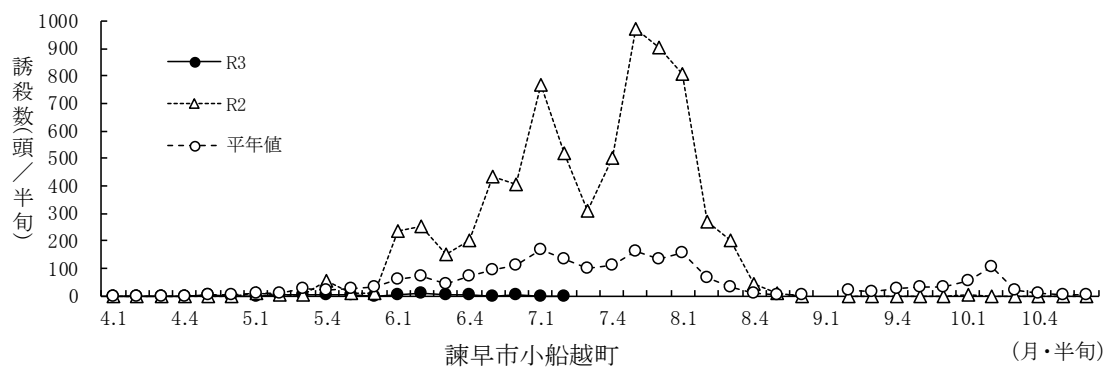


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は12.6枚（3.4枚）、発生圃場率は84.2%（53.8%）で、一部多発圃場がみられた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準 P428～429の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は26.2頭（11.2頭）、発生圃場率は94.7%（88.1%）で、一部多発圃場がみられた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準 P430～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

3. チャノココクモンハマキ

令和3年7月15日付け**病害虫発生予察防除情報第9号**による。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.3枚（0.1枚）、発生圃場率は15.8%（7.8%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、6月1半旬に1回目のピークが見られ、平均並で推移している（図）。

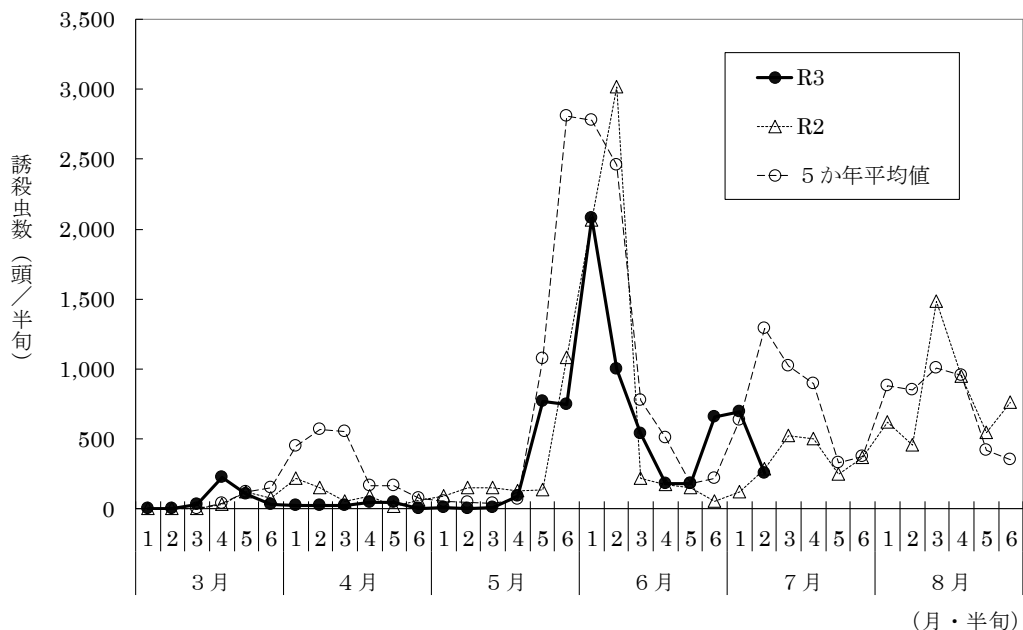


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は2.1%（0.2%）、発生圃場率は15.8%（8.8%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は4.6頭（3.3頭）、発生圃場率は78.9%（69.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は4.1%（7.2%）、発生圃場率は42.1%（38.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を参考にし、ふ化盛期～5日後までに防除する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日（第2世代）

地区名	標高(m)	令和3年	令和2年	令和元年	平年 (過去10か年)
東彼杵町太の原	360	7/15	7/22	7/24	7/23
五島市上大津	77	7/14	7/12	7/17	7/15

注1) 方法は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原（農林技術開発センター茶業研究室による測定値）、五島市上大津（アメダスデータ）で予測した。

なお、それぞれ7月14日以降のデータは東彼杵町太の原過去5か年平均、五島市上大津平年値を用いた。

注2) 気温が高くなるとふ化盛期が早まる可能性があるので注意する。

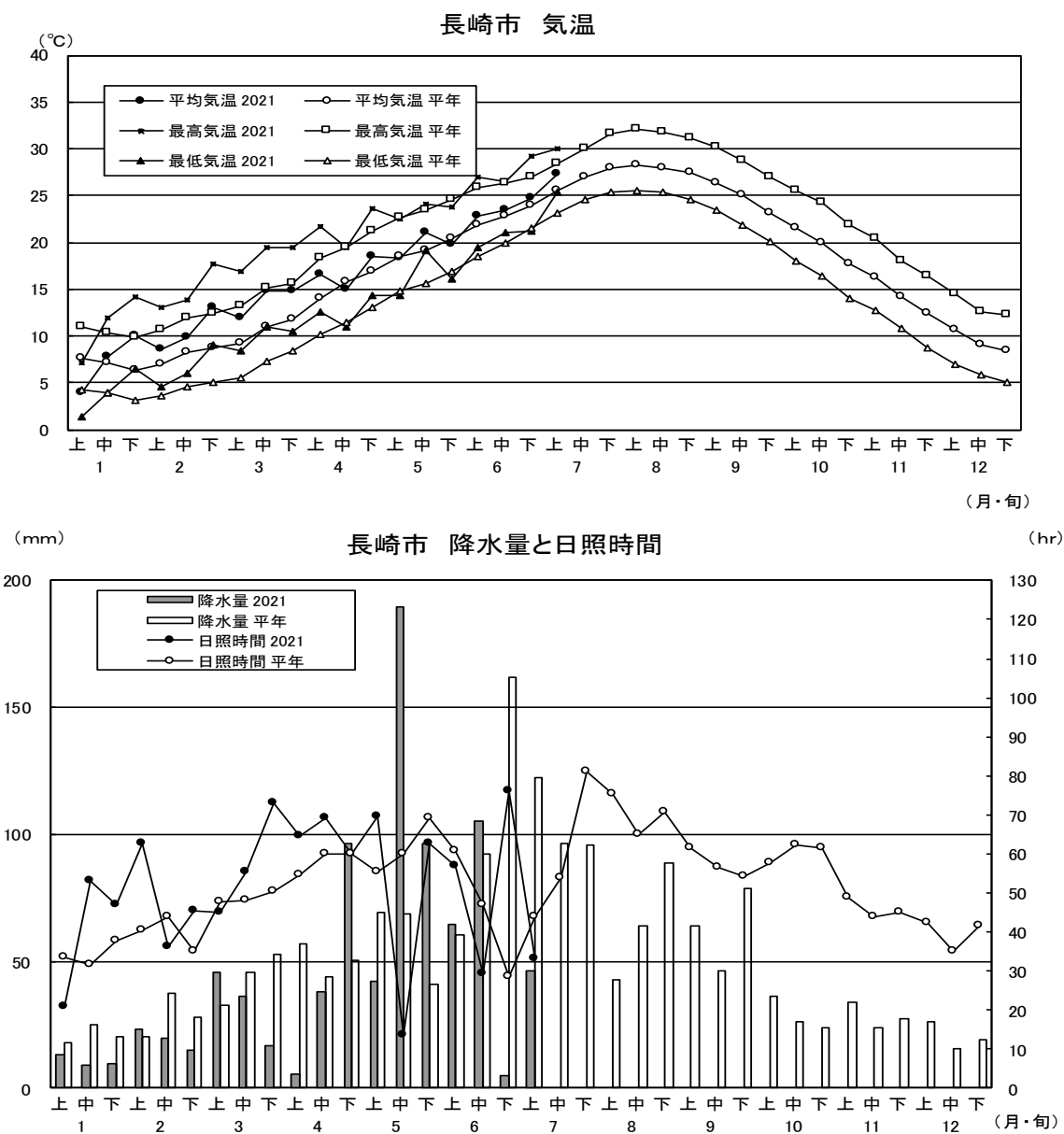
【参考】

(令和3年7月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年の気象経過 (長崎地方气象台)



- 6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。
- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

